

長岡版広域道路ビジョン

長岡開府400年

ROOTS
400 越後長岡

ビジョン策定の背景

「国土のグランドデザイン2050」国土交通省（平成26年7月）

○キーワードは「コンパクト+ネットワーク」

【コンパクト】

- ・人口減少下で、効率的にサービスを提供するには各地域をコンパクト化することが不可欠
- ・快適な生活に必要な高次な都市機能を維持するには、周辺自治体が連携し、おおむね30万人程度以上の都市圏が必要

【ネットワーク】

- ・コンパクト化だけでは圏域、マーケットが縮小していくため、コンパクト化した地域をネットワークで結び、人・モノ・情報の高密度な交流を実現し、地域の魅力を継承しながらさらに魅力を発展させ、新たな価値を創造する

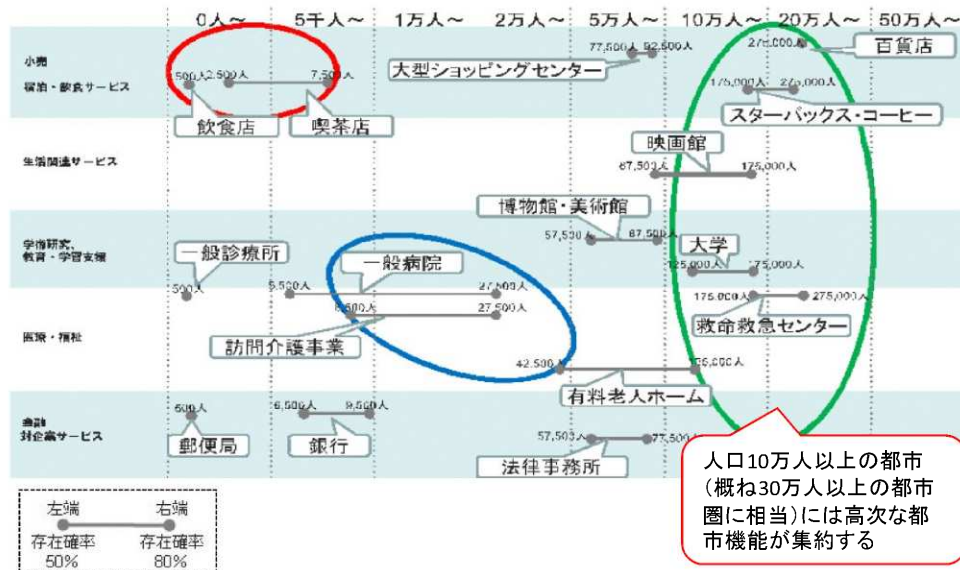


図 サービス施設が立地する確率が50%及び80%となる自治体の人口規模
資料：「国土のグランドデザイン2050」
（各種資料をもとに国土交通省国土政策局作成）平成26年7月

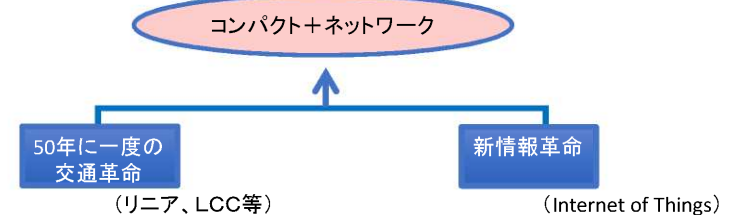
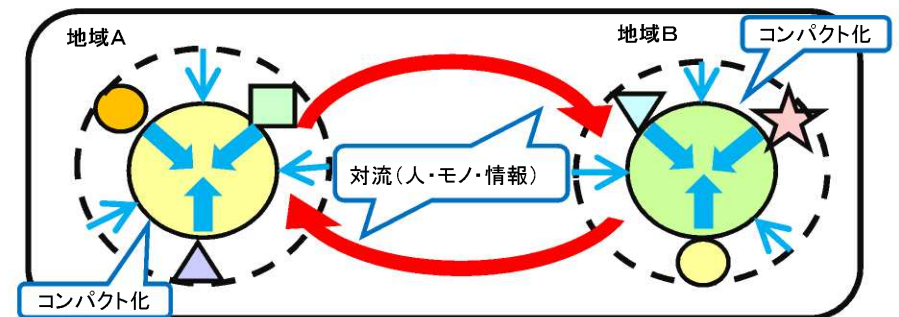


図 コンパクト+ネットワークのイメージ
資料：「国土のグランドデザイン2050」概要 平成26年7月

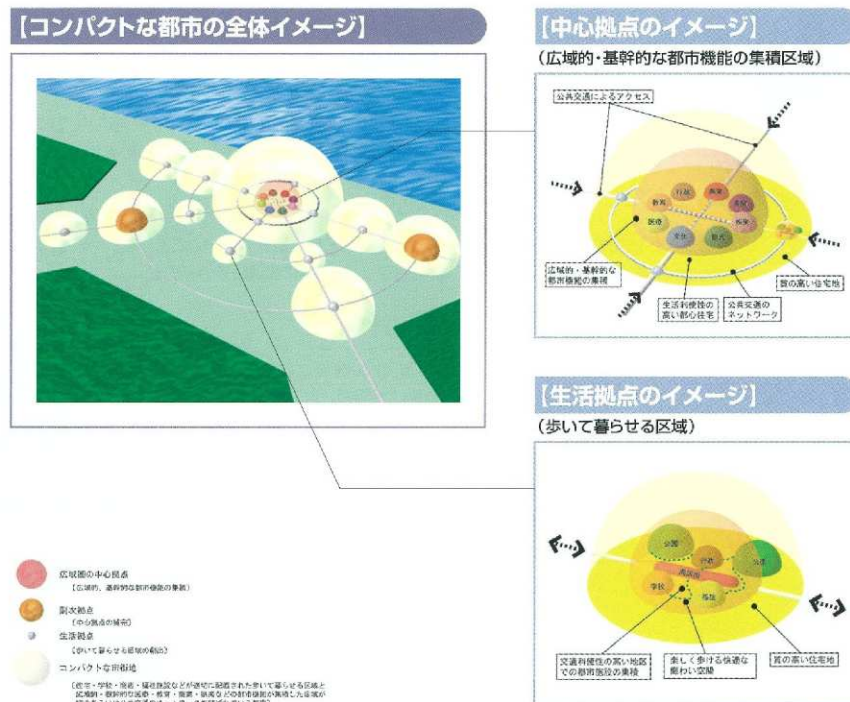
ビジョン策定の背景

「21世紀新潟県都市政策ビジョン」新潟県（平成15年9月）

※このビジョンの理念・方向性を基に平成29年3月に新潟県が広域都市計画マスタープランを策定

○コンパクトとは小さくすることではない

広域的、基幹的な医療、教育、商業、娯楽などの都市機能が集積した**中心都市**と、生活しやすい各種施設が適切に配置された**周辺都市**が、**役割分担しながらネットワークで結ばれ**、「**質の高い生活空間を充足し、中身を濃くする**」ということ



⇒中越地域の結束を高め、さらに他地域とつながりを持ち、中越地域が日本海側の拠点として生き残っていくため、ネットワークの一つの形である道路の分野において、未来を担う若者に夢を与えるようなビジョンを策定する

図 コンパクトな都市のイメージ

資料：新潟県「21世紀新潟県都市政策ビジョン(パンフレット)」(平成15年9月)

①現状と課題(定住人口)

- 少子高齢化、人口減少対策が全国的に喫緊の課題
- 長岡市では、他の地方都市と同様に、主に首都圏への人口流出が続いている
⇒人口（特に若者）増へつながる、長期的な視点に立った戦略的な方策が必要



図1-1 人口の推移

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「都道府県・市区町村別統計表(国勢調査)」
「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月推計)

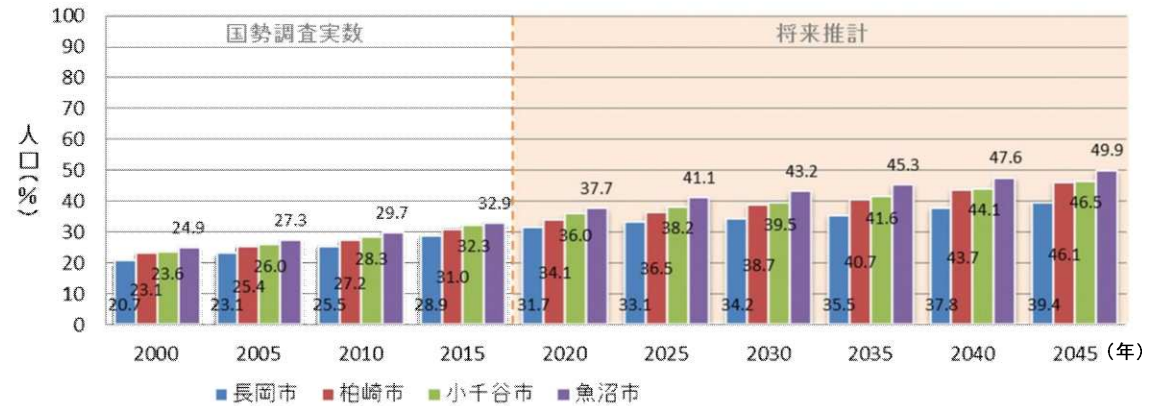


図1-2 高年齢率(65歳以上の割合)の推移

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「都道府県・市区町村別統計表(国勢調査)」
「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月推計)

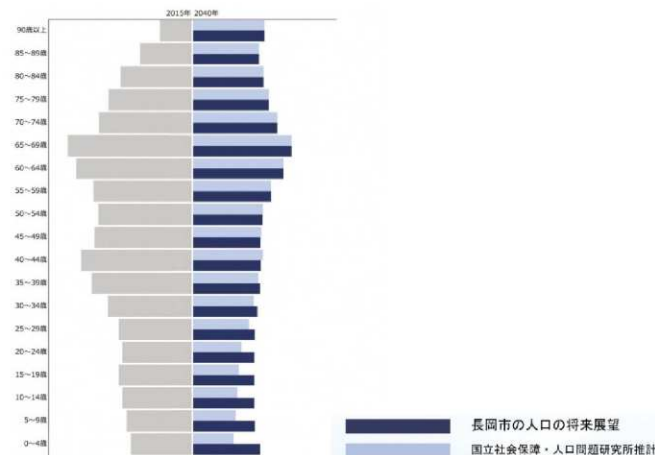


図1-3 長岡市5歳階級別人口構成イメージ

資料: 長岡リジュベネーション 平成27年10月

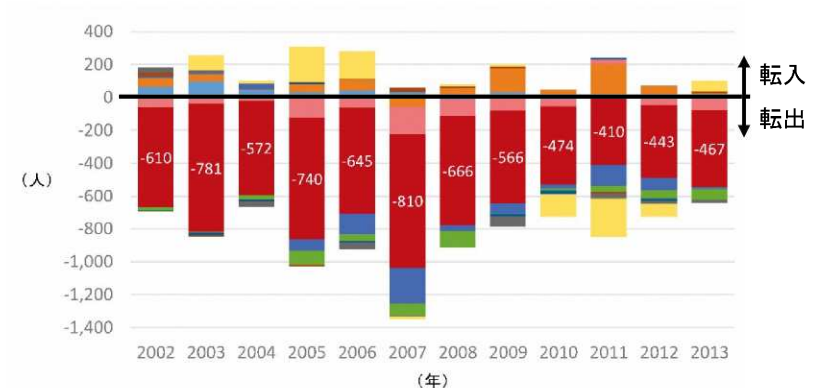


図1-4 長岡市転入・転出のブロック別人口移動数

資料: 長岡リジュベネーション 平成27年10月

①現状と課題(定住人口)

(参考) 「地方消滅」の危機

○2040年には全国約1800市区町村の半分の存続が難しくなるとの予測(平成26年5月 日本創成会議)

○国土のグランドデザイン2050でも、全国6割の地域で2050年に人口が半分以下になるとしている

(H26年7月 国土交通省)

⇒人口流出を食い止める「ダム機能」の構築が必要

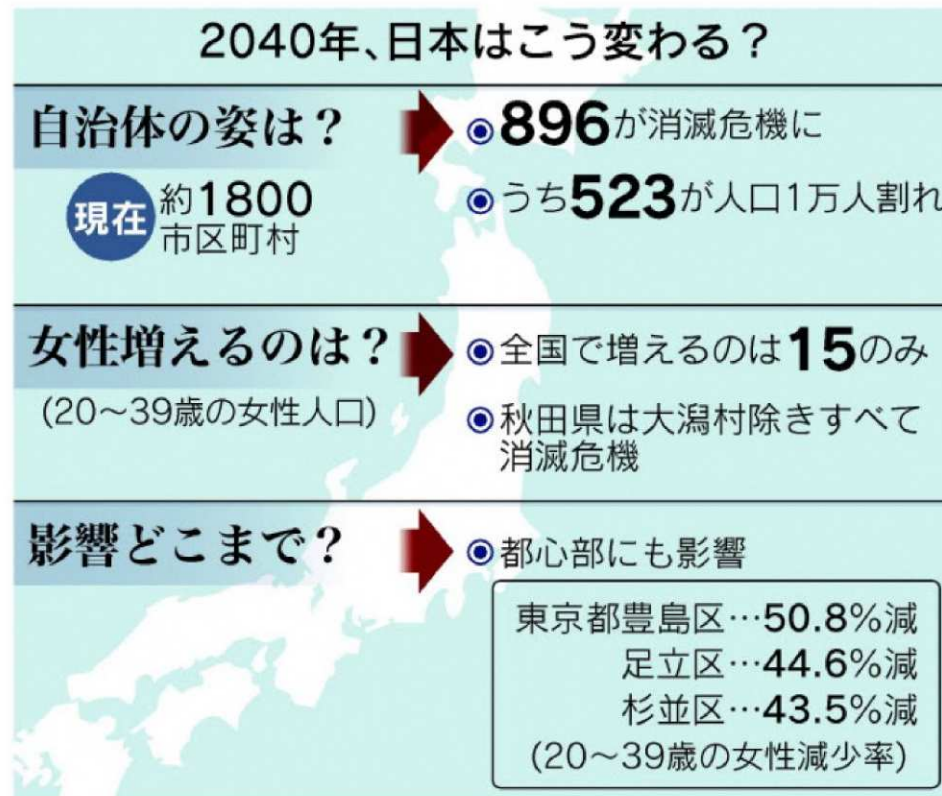
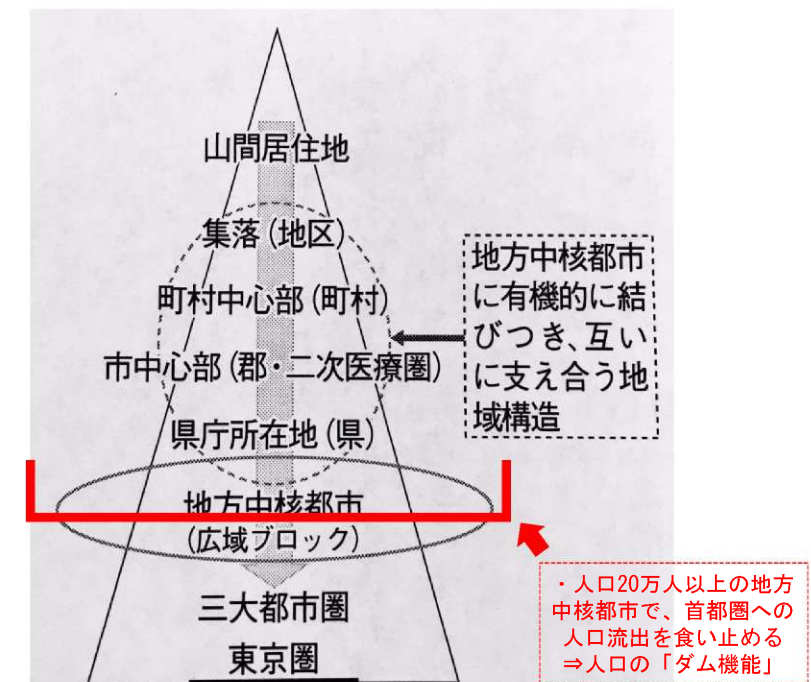


図1-5 自治体、2040年に半数消滅の恐れ 人口減で存続厳しく

資料：日本経済新聞 平成26年5月8日



「広域の地域ブロックごとに、人口減少を防ぎつつ、各地域が自らの多様な力を振り絞って独自の再生産構造を作るための「防衛・反転線」を構築できる人口・国土構造」

図1-6 「防衛・反転線(ダム機能)」の構築

資料：「地方消滅」増田寛也 編著、中公新書 平成26年8月 赤字は追記

①現状と課題(交流人口)

- 大河信濃川を軸に、山岳から平野、海岸にわたる多様な自然環境、雪国特有の街並みや、中山間地の棚田風景など、日本の原風景を感じさせる景観を有している。
 - 火焰型土器に代表される縄文文化や、上杉謙信・直江兼続・良寛にゆかりのある城趾など、歴史に根差した良好で風情のある市街地景観・眺望景観を有しているほか、越後丘陵公園、みなとまち海浜公園、奥只見、長岡まつりを始めとした大花火大会など、多様な観光資源を有している。
- ⇒インバウンドを含めた広域周遊・長期滞在型観光振興のための広域連携・情報発信が必要

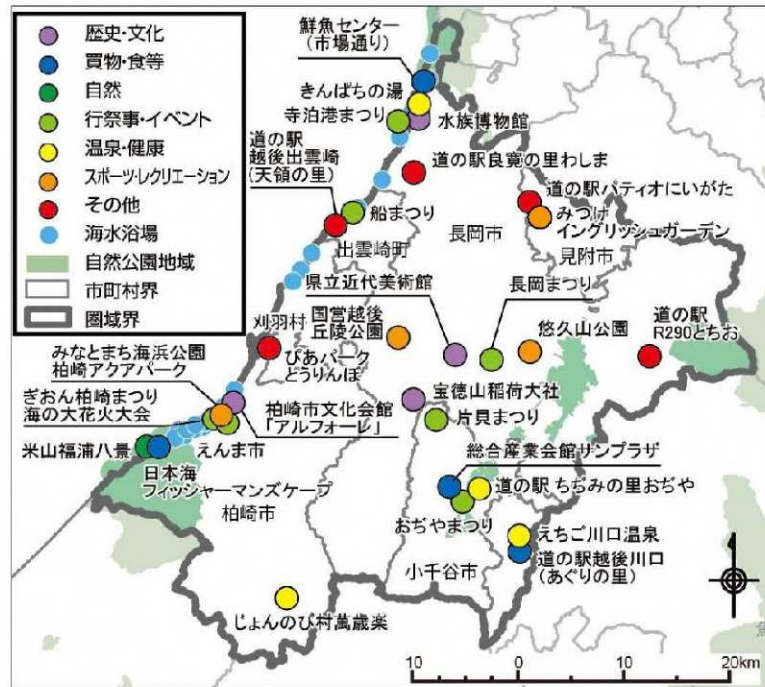


図1-7 観光資源等の分布状況

資料：中越圏域 広域都市計画マスタープラン 平成29年3月

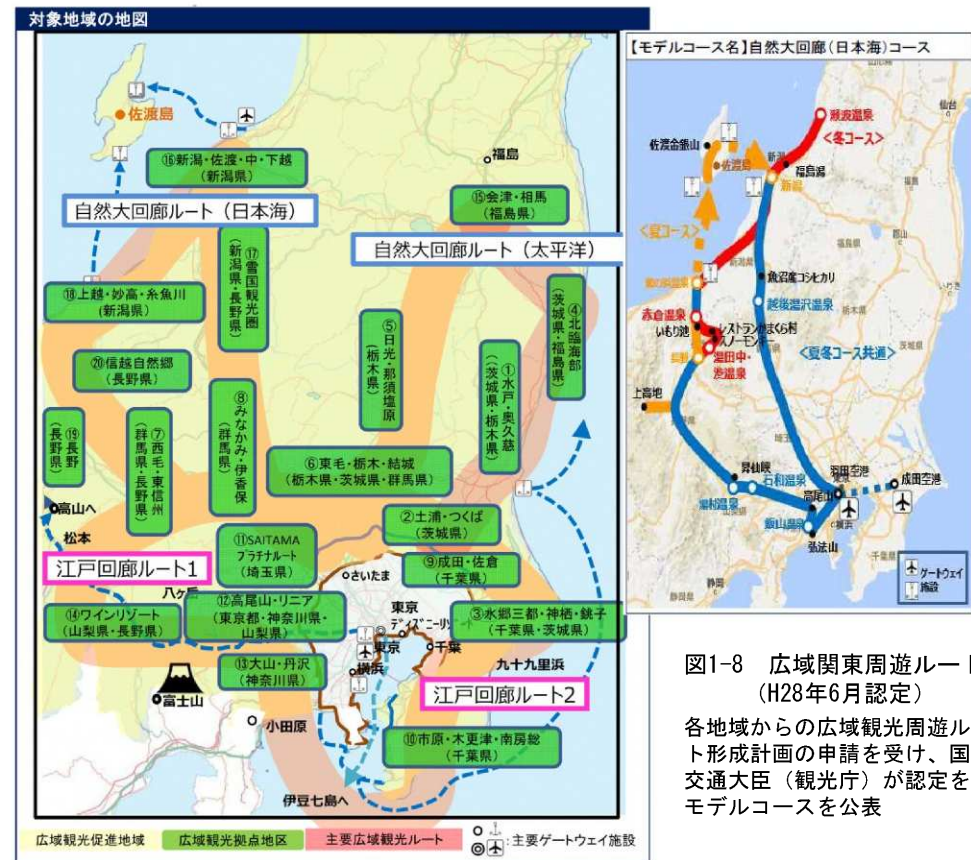


図1-8 広域関東周遊ルート
(H28年6月認定)

各地域からの広域観光周遊ルート形成計画の申請を受け、国土交通大臣（観光庁）が認定をし、モデルコースを公表

①現状と課題(交流人口)

インバウンドの実態

○平成28年度の県内外国人宿泊数は、総数で約19万人となり、対前年度比2.4%増となった。

主として、韓国、台湾、中国をはじめとするアジア地域が多いが、オーストラリアからも多く、いずれもスキーシーズンに宿泊数が多くなる。

○地域別では、魚沼地区(湯沢町)での宿泊数が最も多く、次に、下越地区、上越地区の順となっており、中越地区は低迷している。

⇒中越地域においても、広域周遊・長期滞在型観光振興のための広域連携・情報発信が必要

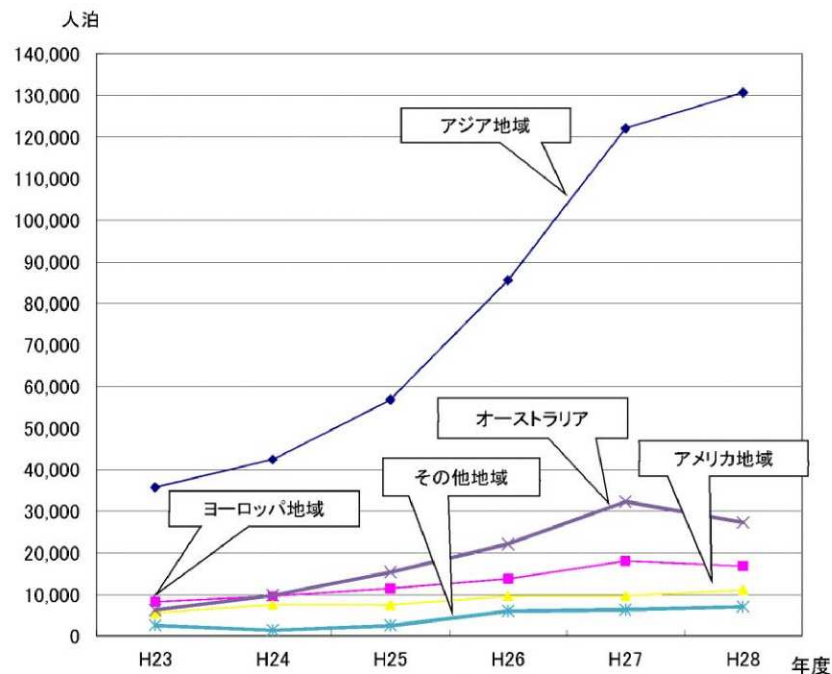


図1-9 新潟県訪日外国人国別宿泊数の推移

資料：平成28年新潟県観光入込客統計 平成29年11月

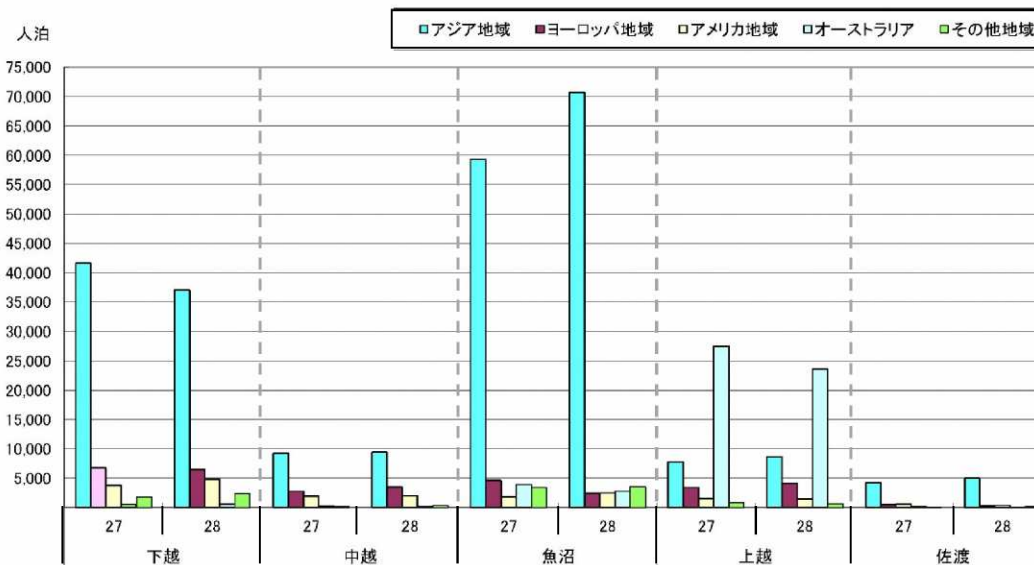


図1-10 新潟県地域別宿泊状況

資料：平成28年新潟県観光入込客統計 平成29年11月

①現状と課題（産業）

- 油田開発に端を発する機械産業や、幹線交通軸の拠点性を活かした先端産業が集積
- 我が国有数の米どころであり、清酒・米菓子・製麺などの飲料・食品加工産業が盛ん
- モノづくりや環境・デザインなどの分野で産学官が連携した技術開発・研究・人材育成等が盛ん
⇒産業や地域資源の集積を活かし、更に企業進出を促す方策が必要

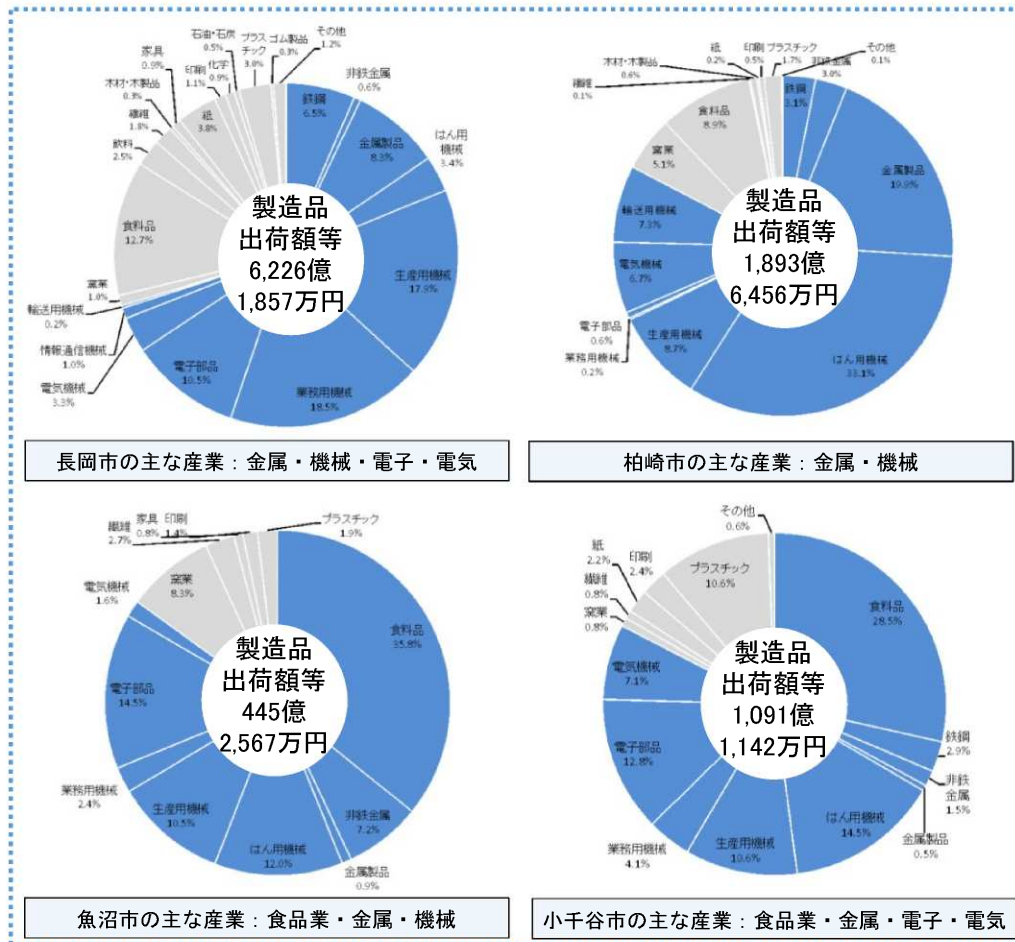
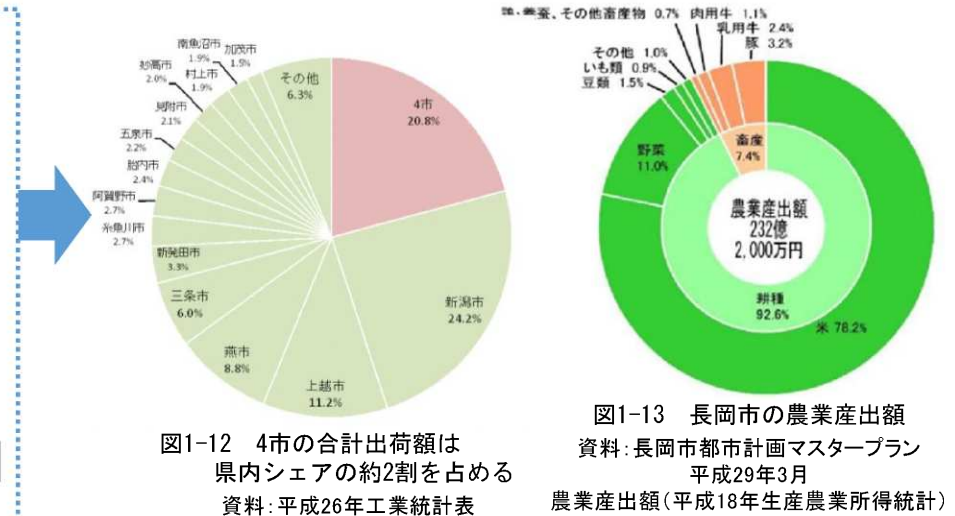


図1-11 製造品出荷額等
資料：平成26年工業統計表



長岡高専の学生チームが開発した水田の水位や温度・湿度などをチェックできる監視システムが、全国高専プログラミングコンテストで特別賞など3賞を受賞、「起業家甲子園」やシリコンバレーの「起業家育成プログラム」にも参加
資料：長岡市HP

①現状と課題(大規模災害リスク)

○本圏域では、近年、水害・土砂災害（平成16年7月新潟・福島豪雨、平成23年7月新潟・福島豪雨）、地震（新潟県中越大震災、新潟県中越沖地震）、雪害（平成28年集中豪雪）など多くの災害が発生

○本圏域の約75%が特別豪雪地帯に指定され、雪崩や異常降雪などによる生活への影響が懸念されている。

⇒安全・安心で住みやすい地域づくりが必要

被災の様子



写真1-1 「平成16年新潟県中越地震」により通行不能となった道路（長岡地域）

資料：長岡市都市計画マスタープラン
平成29年3月



写真1-2 平成28年1月長岡市国道8号大雪による大渋滞（長岡地域）

資料：毎日新聞 平成28年1月27日



写真1-3 「平成16年新潟県中越地震」により国道117号山辺橋付近の欠陥（小千谷市山本地域）

資料：小千谷市復興計画の長期検証（総括）平成26年10月



写真1-4 「平成19年新潟県中越沖地震」により柏崎市内の被災状況（柏崎地域）

資料：「能登半島地震・新潟県中越沖地震」北陸地方整備局の取組と地域支援 平成20年4月

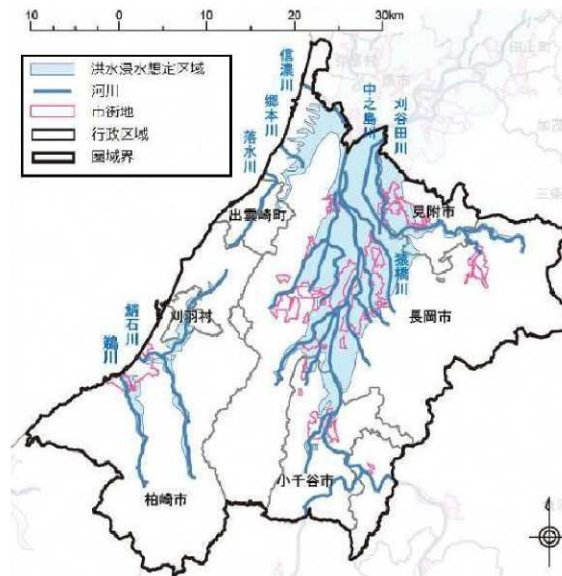


図1-14 洪水浸水想定区域集成図
（柏崎市、刈羽村以外は信濃川の氾濫によるもの）
資料：中越圏域広域都市計画マスタープラン 平成29年3月

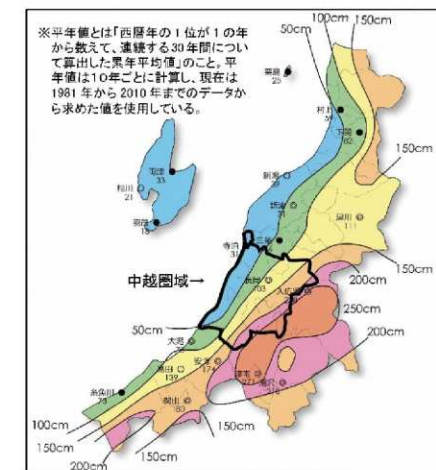
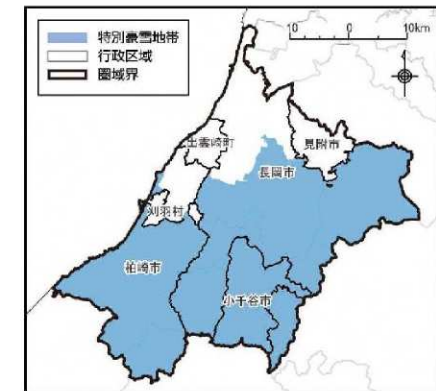


図1-15 特別豪雪地帯指定状況（上）、最深積雪年平値分布状況（下）
資料：長岡市都市計画マスタープラン 平成29年3月

①現状と課題(課題まとめ)

人(若者)を増やす(減らさない)ためには

○定住人口を増やす……働く場所を増やす

- ・交通の利便性を活かし、地方中核都市長岡市と中越地域、及び他地域を繋げ、日本海側の産業のハブとなる

働く場所がある

子育てしやすい

…… Uターン、Iターン

○交流人口・関係人口※を増やす……中越のファンを増やす

- ・資源、宝はたくさんあるはずなので、各地域が連携して魅力をアピール

海や山魅力的な観光

おいしい食べ物

モノづくり技術

魅力的な研究開発

… 観光客リピーター、インバウンド
関係人口、産業・技術交流

※注)関係人口:週末ごとに通ってくれたり、頻繁に通わなくても何らかの形でその地域を応援してくれるような人たち(小田切 徳美)

○安全・安心で住みやすい地域づくり

- ・各地域が補い合って不利な条件を克服するとともに、生活に必要な都市機能を強化

災害に強いまち

充実した医療

買い物しやすい

充実した教育

…… 人口の定着

②都市構造(広域的な視点)

- 新潟県全体の発展には、関東に近い中越圏域が、新潟圏域、上越圏域と連携を強化することが重要
- 歴史的つながりの深い中越圏域と会津圏域を、新たな連携軸で結び交流の枠を広げる

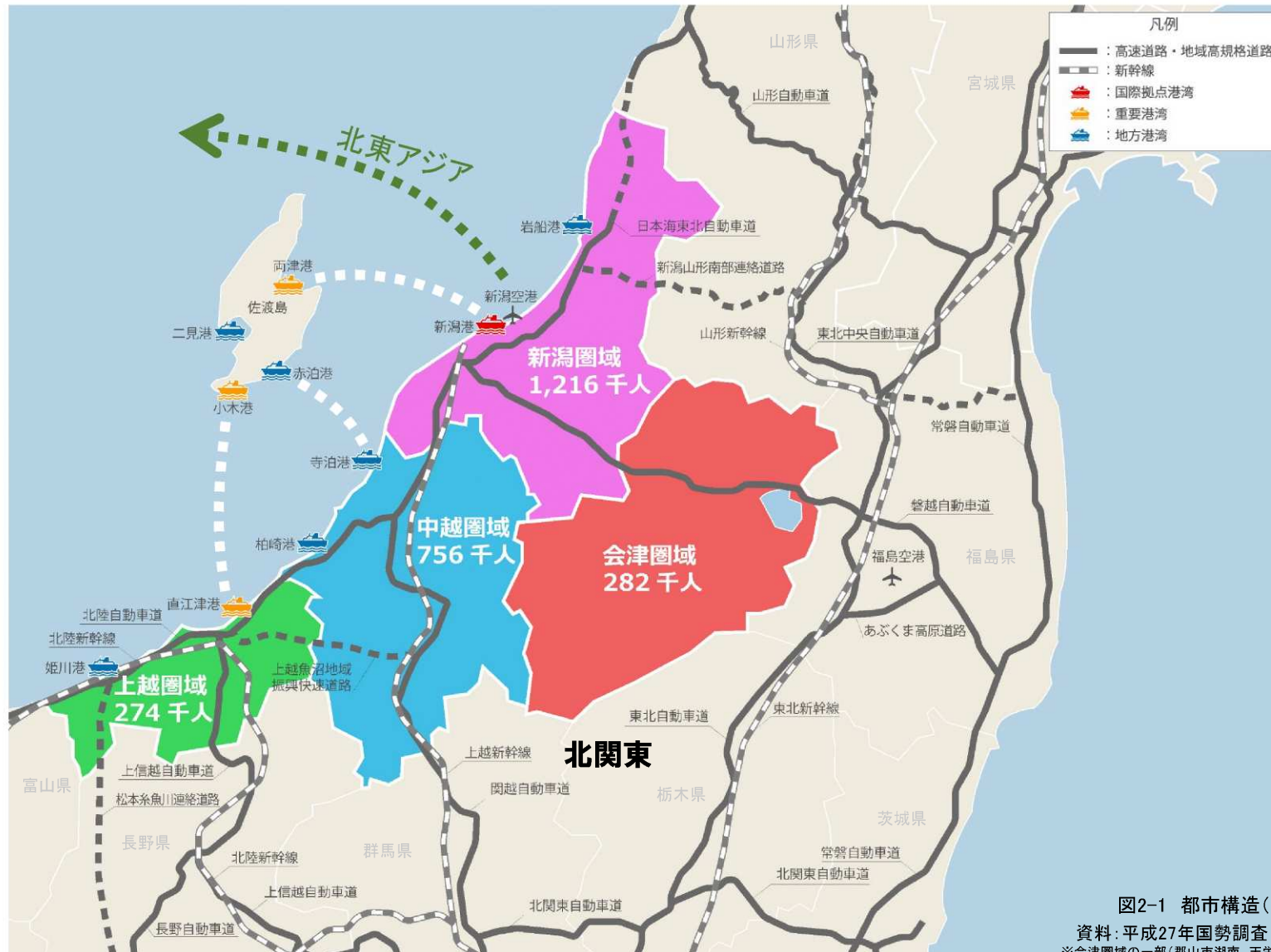


図2-1 都市構造(広域的な視点)

資料: 平成27年国勢調査 人口等基本集計結果
※会津圏域の一部(郡山市湖南、天栄村湯本)の人口は自治体HPより

②都市構造(中越地域の視点)

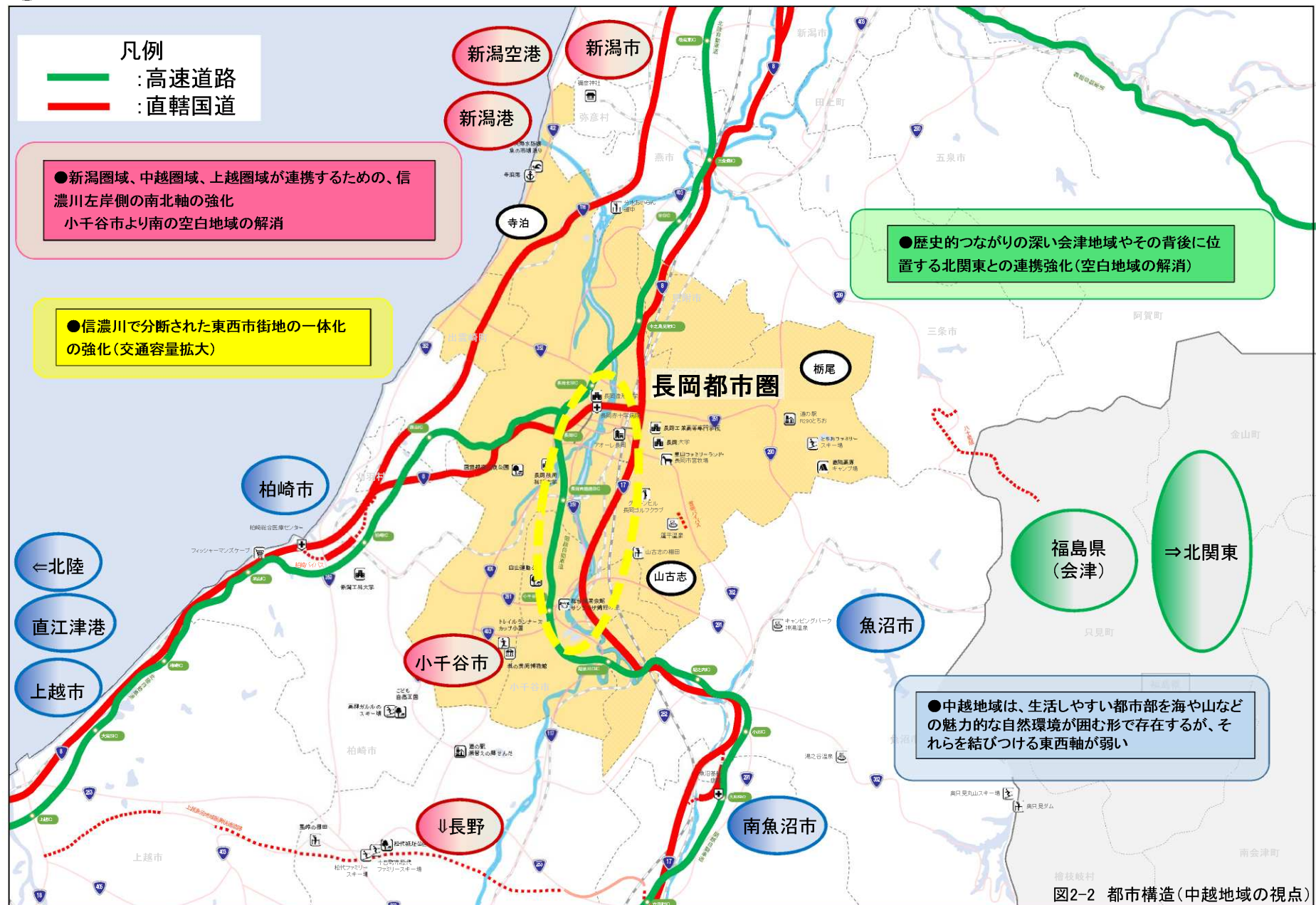


図2-2 都市構造(中越地域の視点)

③議論の視点

広域連携による、地域の産業・資源の一層の活用

- ・地域固有の魅力を国内外に広くPRし、交流を促進
- ・歴史文化や自然風景などを活かした魅力的な周遊ルートの発見
- ・海水浴やスキー、温泉、映画館などの非日常的な体験を身近に感じる など

港湾や空港、新幹線とのつながりによる、物流・人流の広域化

- ・地域産業の海外市場の獲得
- ・インバウンドの受け入れ強化 など

安全・安心で住みやすい地域づくり

- ・災害に強い国土づくりの観点から、物流ルートの整備強化
- ・第3次救急医療機関への確実なアクセス性の確保 など

信濃川東西市街地の一体化

- ・周辺地域を引きつける長岡市の都市機能の強化
- ・通勤、通学、買い物等日々の生活の利便性向上 など